

令和5年度 西武学園文理中学校自己評価表

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む		A ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	グローバル社会で活躍しうる国際人としての素養を身につける。 自ら問いや課題を設定し解決していく力を身につける。 自己の未来を切り開く力と大学での深い知識・技術を修得するために必要な力を身につける。	凡例	B おおむね達成 (6割以上)
			C 変化の兆し (4割以上)
			D 不十分 (4割未満)

年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況	達成度	
1	教育活動	学力の向上	感染による学級閉鎖・学年閉鎖などに備えて日頃からリモート授業に対する準備を怠らず、教員もICTスキルを磨く努力を図る。これまでにリモート授業を経験した教員も多く、学校全体としては緊急事態にも対応できる。	A	生徒と教員の双方が継続してICTに触れる機会を拡大する。
			総合的な英語力(4技能)を習得させるため、外国人教諭主導の授業展開と分割授業のあり方の改革により、次年度から個々の能力に応じた授業展開への移行を計画する。また、授業のあり方を改善するためにシラバスの見直し等も検討を始めた。	B	次年度から実施可能な状態に環境を整備することができた。教科横断型の授業などの新たな取り組みを推し進めたい。
			英検や漢検の受験を奨励する。特に英検についてはし、卒業までに英検準2級以上の取得を呼びかける。	B	事前指導の充実を図るなどの工夫により取得率8割を目指す。
			体験的な活動や研究を中心に学習を展開するようにし、その過程や研究結果に関する成果物をiPadに記録させ、卒業論文として仕上げさせた。また、卒論の発表を学年および1・2年生にも聞かせることによって、プレゼンテーション能力の向上を図り、下級生には、卒論の指針を与えた。	B	1年生から卒論を仕上げるための探究方法の指導も採り入れ、内容をさらに高いものになるよう指導していく。
		人間形成	クラブ活動では時間制限がある中で、県大会に出場するクラブもあり、生徒の努力と成長が認められた。委員会活動や学校行事も出来る範囲で実施し、改めてクラブ活動や学校行事を通して、生徒達に達成感や協調の大切さを実感させることができた。	A	中央委員会を中心に、委員会活動の充実を促す。学年を超えた縦のつながりの強化も期待する。
			「総合的な学習(CA)」の計画的な実施と、内容の充実を図った。文化祭と卒業公演を発表の場として、来校者を保護者限定で行い、発表の中で仲間との協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを身に付けることができた。	B	開校以来の伝統を守ると共に、見直しを含めより充実した内容になるよう努める。
2	学校としての組織的対応	中高連携	小中高の連携を強化するため定期的に関催し、意見交換をすることができた。	B	小学校との情報共有は進んだ。小中高で連携した行事なども考えたい。
		保護者との連携	保護者会(年3回)、保護者面談(年1回)実施。年度当初の保護者会で学年運営計画を説明し、理解と協力を求めた。また、HPやスタディサプリア連絡帳で連絡事項の徹底を図った。	B	次の時代に向けた新しい教育のあり方を推し進めると同時に保護からも応援されるように情報共有をしていく。家庭に必要な情報を届け、学校の取り組みについての理解をお願いする際には、情報が一方通行にならないように配慮する必要もある。
		教育活動の配信	学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、スタディサプリアによる情報発信で学校の様々な活動を保護者に伝えた。	B	ICTを利用した情報発信へと切り替えてくことで必要な情報を瞬時に家庭に届ける。
		学習環境の整備	wifi環境が全館に整備された。教員と生徒が一体となってICTスキルの向上のために努力した。	A	ICT機器のさらなる補強によって生徒の学習環境を改善したい。
3	教職員人材育成	授業アンケート・学校アンケートの実施	生徒による授業アンケートを年2回、生徒と保護者による学校アンケートを年2回実施した。授業アンケートについては、教員一人ひとりに集計結果を示し、教員が明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させるなど、自らの指導改善に役立てた。学校アンケートについては、2回の変化を検証し全教員で共有した。	B	次年度も各教員の指導力向上に向けて、授業観察や研究授業を実施し、授業力の向上を図る。また、保護者にきちんとフィードバックをする。
		目標設定シートと評価	全教員が「年度目標設定シート」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価した。今後、分掌評価、学校評価へ結び付けている。全職員との業務面談と授業観察を実施することができた。	C	管理職による業務面談を通して問題点を洗い出し改善策を探る。
		職員研修の実施	年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「人権教育」「教務」「国際教育」「防災」「コンプライアンス」「生徒募集」「ICT」など、内容も多岐に及んだ。また、オンラインによる研修に多くの教職員が利用した。	B	年間を通じてより計画的な研修を実施し、資質向上に努める。特に生徒の多様化する問題に対応できるよう教職員の意識を高める。また、教科指導の強化が出来るように教科長主導で、研究研修を行う。

令和5年度 西武学園文理中学校学校関係者評価

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む	凡例	A そう思う
重点目標	グローバル社会で活躍しうる国際人としての素養を身につける。 自ら問いや課題を設定し解決していく力を身につける。 自己の未来を切り開く力と大学での深い知識・技術を修得するために必要な力を身につける。		B どちらかといえばそう思う
			C どちらかといえばそう思わない
			D そう思わない
			E わからない

評価項目	学校関係者評価	次年度への課題と改善策	意見・要望など
総合的評価	心の教育が充実している	(1)バスの運行状況から改善策を探る。 (2)校則、制服、指定用品の見直しを進める。 (3)計画的な改装と、安全性を保障していきたい。 (4)生徒と保護者のリクエストを反映させる。 (5)問題解決のためのプランを策定する。 (6)個別最適な学びのための教育課程を編成する。 (7)諸経費の削減についての検討する。	「現在の通学用靴にリュックタイプを導入して欲しい。」「本数の増便など必要に応じてご検討頂けますと幸いです。」「外部の人も簡単に校舎へ侵入可能だと思いました。部外者が校舎に入れないようなセキュリティーを充実させてほしいです。」「部活のスケジュールを保護者にも配信して頂けたら助かります。」「夏休みのゼミの予定など年間予定表では確認できませんが確実なもの、詳細を知る方法が他にあれば教えて下さい。」「購買の時間帯を検討して欲しいです。保護者会の時だけでなく、保護者がいつでも購入出来るようにお願いできたら幸いです。」「イベントごとに簡単なアンケートを取っていただくと、良いと思います。」
	学校行事が充実している		
	グローバル教育が充実している		
	進路指導が充実している		
	学費は適切であると思う		
	クラブ活動が充実している		
	学校行事が充実している		
	学校の雰囲気や校風が良い		
学習指導評価	生徒に公平に対応し、信頼できる	(1)教授方法の工夫と改善にむけて努力する。 (2)英語教育の見直しを進める。 (3)ゼミや補習の更なる充実を図る。 (4)キャリア教育の充実を図る。 (5)行事とのバランスを調整する。 (6)道徳の授業内容の見直しと外部講師の充実を図る。 (7)行事（海外研修旅行や語学研修、短期留学など）や授業内容（GCPやALT）を再検討する。 (8)ICT機器の充実と利用状況の拡大	「生活や学習指導は理にかなっているものの、個人名の公表などに関してはプライバシーへの配慮があっても良いのではと思うことがあります。」「夏期ゼミの充実を望みます。休業中はベースが乱れやすく、有料でもいいので充実してほしいです。」「英単語の勉強の仕方を保護者がサポートできる方法を教えてください。」「きちんと取り組まない生徒がいるため、授業が途中で止まったり、進まなかったりすることが多くあると聞いている。」「各企業と連携して、社会を知る体験をさせてほしいです。また、ipadにgoodnote5のソフトを入れていただきたいです。」「中より中2、中2より中3、と子供が楽しく学校に通っているのを感じますし、勉強もするようになりました。」
	英検の指導が充実している		
	学習指導や教科指導に満足している		
	教科指導力がある		
	教科カリキュラムやシラバスは適切なもの		
	保護者からの質問や相談に、誠意をもって対応		
	教員評価		
保健室の来室者対応に満足している			
生活指導は適切である			
長期休業中の課題内容や量は適切である			
普段の宿題の内容や量は適切である			
基礎学力の定着がきちんと行われている			
成績下位者の面倒をよくみてくれる			
成績上位者をさらに伸ばしてくれる			

令和5年度 西武学園文理高等学校 学校自己評価表

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む	達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	グローバル社会で活躍しうる国際人としての素養を身につける。 自ら問いや課題を設定し解決していく力を身につける。 自己の未来を切り開く力と大学での深い知識・技術を修得するために必要な力を身につける。		B	おおむね達成 (6割以上)
			C	変化の兆し (4割以上)
			D	不十分 (4割未満)

年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況	達成度	
1	教育活動	学力・学習意欲の向上	1・2年次の探究学習の取組を3年次にも継続した生徒が、第一志望大学へ総合型選抜で合格した。探究学習の過程で将来の目標を立て、主体的に取り組めたことが合格の大きな要因である。学校推薦型選抜（公募制・指定校制）においても、探究の成果を面接の主眼に置く生徒が増加している。	A	令和6年度からのガチ・プロジェクトや探究学習への積極的な取組が、今後さらに割合を増やすであろう総合型選抜や学校推薦型選抜での合格に結びつくため、基礎学力の定着とともに探究のサイクルを回し続けることがより重要になる。
			多様化する受験方法や令和7年度からの新課程での入試に対応できるよう、進路指導部・教務部が一体となって生徒の進路志望を実現できるよう取り組んだ。また外部での研修に参加した教員が積極的に情報共有を行い、進路指導への生徒・教員への意識の向上に貢献した。	B	教科の指導力向上のためには、教員個々の取組だけでは不十分である。各教科または教科を越えての、新たな学力を育成するための指導方法についての研究推進と、大学入試問題研究による進路指導の更なる充実を図る。
			サイエンスホールにWi-Fi環境を整備し、生徒が日常的に学習する場への提供はほぼ完了した。Chromebook導入4年目となり、課題の配信・提出、小テストの実施、文理探究での協働的な活動など、さらに発展させることができた。	A	Chromebookやスマートフォンの学習への利活用の校内での自由度が上がったため、よりデジタル・シティズンシップ教育の重要度が増している。
		学習サポートセンターを定期考査前・考査中、またクラブ活動終了後に多くの生徒が利用し、自学自習の習慣が身に付いた生徒が増えている。また本校卒業生がチューターを務めるなど、生徒の実情に合わせたより細やかな指導が行われている。高校1・2年生の新狭山ベア館の試験前以外の利用者が増加した。	B	学習サポートセンターのリニューアル以後も、各教科担当、担任との連携を強め、学内で学習時間が完了できるよう、また退会者を出さないように学習環境作りを促進する。	
		人間形成	「自ら課題と向き合い、主体的に問題を解決する力」や「人間として大切な真、善、美の心」を育てる学校行事（中高別体育祭・文化祭・高2海外研修旅行・高1・2探究発表会など）が、コロナ感染症5類移行後、生徒の活動が活発化しより充実したものになった。	A	学校行事等をコロナ禍前の活動と同様に生徒が主体的に取り組めるよう、生徒の活動をサポートする。
2	学校としての組織的対応	企画運営会議の活用	週1回の企画運営会議では学年・分掌からの協議課題を扱い、企画案や問題点をスピード感をもって対処すべく会を実施してきた。またその議事録を速やかに学内に公開し情報共有がスムーズになった。	A	報告・連絡・相談を行う場であると同時に諸問題の解決に向けて決定していく場であり、教員の意見を広く求める職員会議や決定機関の管理職会議とはその性質を異にすることを周知する。
		進路指導の充実	模擬試験の分析会を通じて、生徒一人ひとりの今後のあり方を考えるとともに、教科担当として何に力を注ぐべきかを考え、日頃の学習指導に活かした。進路指導計画の作成により、全教員が共通認識のもとに進路指導を実践できるようになった。3学年全体での成績会議では、担任・教科担当・クラブ顧問の目で個々の生徒の現状を把握し、日頃の生徒の努力に対し声掛けができるようにした。	B	1・2年生での英語・数学の習熟度別授業の効果を検証し、3学年での展開に活かして、学力向上を図る。
		学校改革	育てたい生徒像とともに、3つのポリシーに根ざした本校が目指す姿を共有し、日々の活動に生かした。多様な価値観をもつ仲間と協働できる人材を育成するために、内進生と高入生の混合クラスを継続し、探究をより深化させた。また、生徒がスマートフォンの校内利用のガイドライン作成するというルールメイキングを通じて、生徒は自分たちの学校生活をより良くするために主体的に行動し、市民性を発揮する機会を得ることができた。	A	令和6年度より校則の全面的な見直しを行い、頭髪や服装に関するルールがほぼ撤廃された。主体性を育む教育、多様性を認め合う意識を培う教育の実践であるが、生徒が自由と自己中心的な行動をはき違えることが無いよう、注視していく必要がある。
		教育活動の対外的報告	1・2年生の探究活動の成果発表会を2月に狭山市民会館で行うことができた。審査員として狭山市長や大学教員に出席いただき、生徒発表に対し高い評価を得た。対外的な広報活動としては主にホームページを利用した。学校説明会（学内、学外）等はおもに対面で実施し、例年以上の参加者であった。	B	日頃の教育活動を本校のHPだけではなく様々なSNSを用いて配信し、ステークホルダーの目にとまる機会を増やす。また地域連携の場を設定し、地域の受験生やその保護者に注目してもらい、文理の活動を広く浸透させていく。
3	教職員人材育成	業務面談の実施	一昨年度導入した人事評価制度の「目標設定シート」作成、中間報告、年度末学年主任面談を行い、自己点検・自己評価の改善を図り、自ら課題を明らかにした。年度末には課題の達成度（数値目標）を各自で評価し、学年・分掌業務、教科指導の改善などに結びつけた。	B	学校や分掌長の目標実現のために、教員各自が数値目標を設定し、具体的な施策を示して、教員の自己点検・自己評価の分析を促す体制を整える。各主任と管理職の定期的な面談を実施する。
		教員研修	教員の授業力や受験指導力向上のために予算を確保し、予備校等の受講講座を各教科に指定して受講させ、受講後の教科・科目担当教員への情報発信・共有を義務づけし実践した。またICTに精通した教員がChromebookの活用方法などを、学内に積極的に発信した。	B	最新の受験情報や入試問題の傾向を収集・発信し、教員の受験及び教科指導力の向上に役立つ外部の研修を積極的に活用していく。また教員内でのICT研修も回数をさらに増やしていく。
		授業アンケート	7月と12月の2回授業アンケートを実施し、生徒の学力向上につながる因子を捉え、何が生徒の学力向上に影響を及ぼしているかを分析した。アンケート結果をもとに、生徒に対して教員の受け止めと改善策をクラス内に掲示し、授業改善に役立てた。また教科内で情報を共有し、授業改善へと繋げた。	B	授業アンケートをもとに個人だけではなく教科の改善点も洗い出し、教科として改善へ取り組み、学力向上を実感できる授業展開へと発展させる。

令和5年度 西武学園文理高等学校 学校関係者評価

目指す学校像	課題設定と合意形成の力を育む	凡例	そう思う
重点目標	グローバル社会で活躍しうる国際人としての素養を身につける。 自ら問いや課題を設定し解決していく力を身につける。 自己の未来を切り開く力と大学での深い知識・技術を修得するために必要な力を身につける。		どちらかといえばそう思う
			どちらかといえばそう思わない
			そう思わない

評価項目	学校関係者評価	次年度への課題と改善策	意見・要望など
総合的評価		<ul style="list-style-type: none"> ・制服の価格が高いと感じている方が昨年度より増え4割を越えた。制服リニューアルプロジェクトが動き出しているが、質と価格のバランスを十分に検討していく必要がある。 ・学費についても高いと感じている方が4割近い。令和6年度は多数のプロジェクトが始動する。教科および教科外の学びのどちらも充実させ、満足のいく学びの場を提供していく。 ・北斗星の会とともに防災に関する備品を充足させ、より安全な学習空間をつくっていく。 ・学校行事については、コロナ感染症の5類への移行もあり、コロナ禍前に近い状態戻りつつある。中高別での体育祭や対面での文化祭、12月に海外研修旅行も実施できた。保護者の来校も含め、対面での良さを再認識しながらも、オンラインの方がより適しているかなど、検討する必要がある。 ・今年度、サイエンスホールとIIYOU館へのWi-Fi設置工事が完了し、体育館以外の屋内では全館Wi-Fiの利用が可能となった。学習等に利用可能なネット環境はほぼ整備された。 ・北斗館のトイレ改修が完了した。サイエンスホールや本館A棟の改修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男子の制服に毛玉がでやすいので、素材を変更してほしい。 ・指定のYシャツを「ノーアイロン」仕様にして欲しい。 ・いじめ対策、進路対策、子供だけでなく保護者への情操教育も充実していて満足しています。 ・スクールバスのダイヤや本数の見直しが必要。特に下校時のバスに乗車できないことがある。 ・携帯使用解禁ありがたいです。他にも外見に関する校則は無くしていいと思います。 ・部活の日数が多すぎる。前日など急に練習が入ることがある。 ・強化指定部に入って活動していますが、土曜日午前も練習となった場合、他の生徒との学習時間の差が心配になっている ・連絡が遅く、通知が急で対応できない。
学習指導評価		<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル教育や、昨年に続き英検指導でやや評価が低くなった。放課後に、希望者への二次試験（面接）対策を行っているが、通年での英検ゼミなどの検討が必要である。 ・進路指導部、教務部の有機的な連携、英検等の外部検定対策、文理探究の充実など、更なる学力の向上や総合型選抜、学校推薦型選抜への対応できるよう、多様な生徒のニーズに合った教育活動、進路指導を今年度以上に発展させていく。 ・学習者中心型の授業展開への取組が不十分である。旧来の授業からの脱却が急務である。 ・現状以上に一般選抜で合格できる力を、授業、ゼミ、個別対応等を通してつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル教育に関しては、留学等しなくても普段からネイティブの方との英会話が行われるかと思っていました。・定期テストや模試は、受けること以上に振り返りを重視するなどしていただきたい。 ・次年度高3になりますので、進学指導に期待をしています。 ・先取りよりもとにかく基礎が徹底して身につくように繋げられるようにしてほしい。 ・課題が多すぎて毎日終わらないと課題に追われている。 ・授業参観で、先生が一人でずっと説明し、生徒の半分くらいが授業に関係ないこととして授業があり、高い学費を払っているのに残念に感じました。生徒の学習意欲が上がるような授業を工夫してほしい。
教員評価		<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力があるの満足度が昨年度以上に低下した。習熟度別授業やゼミの充実、模試分析会からの授業へのフィードバック、共通テストや大学別入試問題研究の教科をあげての取組、生徒が実感できる形で満足度を上げていく。 ・校外外での服装や公共機関でのマナー、自転車乗車時のルールの遵守など、苦情の電話をいただくことがある。学校全体の取り組みとして、ホスピタリティー精神の涵養が必要である。 ・日常における授業担当者やクラブ顧問の生徒への積極的な声かけ、担任の面談などを通して信頼関係を構築して生徒の安心・安全を担保し、生徒が主体的に行動・学習できる環境をつくる。 ・社会人としてのマナーや保護者対応などの課題を共有し、生徒保護者が安心して任せられる教員としての資質を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を問い合わせても返答の連絡が担任から来ない事があった。 ・三者面談時の担任の言葉づかいが気になる。 ・授業参観やクラス便りがなく、クラスの様子に分らない。先生方や子供のお友達との顔と名前を覚える機会もほとんどなく寂しいです。 ・教師に対する人権指導や自分自身を知るなどの研修が必要だと常々感じている。